令和８年１０月

保護者・地域の皆様へ

令和８年度　全国学力・学習状況調査の結果について

多気町教育委員会

令和８年４月２３日に、小学校第６学年及び中学校第３学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果の概要について、以下の通りまとめました。

結果の公表については、保護者・地域の皆様に学校教育と家庭教育についてのご理解・ご協力を得ることが何よりも大切であると考え、教科に関する結果、学力の背景となっている児童・生徒質問紙調査から見られた本町の児童・生徒の好ましい傾向と教育課題、そして今後の取組についてお示しさせていただきます。

教科に関する調査結果の概要

教科に関する調査は、小学校では国語・算数の２教科、中学校では国語・数学・英語の３教科で実施され、多気町立小学校第６学年の児童１１８名と多気町立及び多気町松阪市学校組合立中学校第３学年の生徒１０７人が参加しました。調査結果については、小学校・中学校とも全ての教科において全国平均正答率を上回る結果となりました。

以下に、調査結果から「おおむね理解している問題」と「課題がみられた問題」についてまとめました。

【小学校　国語】　**◇…比較的できている点　◆…課題のある点　〔 〕内の記号は、問題番号**

R８小国調査問題

◇話や文章の種類とその特徴について理解することができる。

◆考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することに課題がある。

<おおむね理解している問題>

◇【花山さんの文章の一部】の下線部アを、漢字を使って書き直す問題（みじか-い）　〔２三ア〕　（正答率：約８割）

◇【文章】の特徴として適切なものを選択する問題　〔３一〕　（正答率：約８割）

<課題がみられた問題>

◆【花山さんの文章の一部】の下線部①に続く文として適切なものを選択する問題　〔２二〕　（正答率：約５割）

◆【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く問題　〔２四〕　（正答率：約４割）

大問２二　【花山さんの文章の一部】の下線部①に続く文として適切なものを選択する。

「R８全国学力学習状況調査　小学校国語」より

【花山さんの文章の一部】

暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう

1　はじめに

夏休みに外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。暑いときは、そでがアみじかい方がすずしいのではないか。なぜ、長そでの服を着ているのかイふしぎに思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。

2　どうして暑い日に長そでの服を着るのか

「生活と太陽」という本には、「日差しの強いときにはだを出して日焼けをすると、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする。」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服でおおっている人たちがいる。皮ふに直しゃ日光を当てない方がすずしいのである。」と書かれている。①強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだ。

では、すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのだろうか。

3　すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのか

「熱中しょうかん境保健マニュアル２０２２」には、暑さをさける衣服のくふうとして、「ゆったりした衣服にする。」、「えり元をゆるめて通気する。」と書かれている。また、「夏のくらし方」という本には、「服とはだの間に風が通るようにえり元やすそをゆったりさせると、すずしくなります。」と書かれている。〈図〉のように衣服の形や着方を意識してくふうすることで、長そでの服でもすずしく快適に過ごすことができそうだ。

〈図〉



では、衣服の形や着方以外に、快適に過ごすくふうはあるのだろうか。

問　題

花山さんは、【花山さんの文章の一部】の ―― 部① で述べた「くふう」を具体的に説明したいと考え、文を書き加えることにしました。

―― 部① に続く文として最も適切なものを、次の１から４までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

正答率：45.8％

課題がみられた問題

① 例えば、長そでのシャツをはおるなどのくふうが考えられる。
2　例えば、そでのないシャツを着るなどのくふうが考えられる。
3　例えば、えり元を開けて着るなどのくふうが考えられる。
4　例えば、日かげを選んで歩くなどのくふうが考えられる。

解答類型	反応率（%）
1	45.8
2	10.2
3	36.4
4	5.9

誤答例の分析と課題

【３】のように回答した児童の中には、「例えば、」という表現に続く内容が考えを支える事例であると捉えることができなかった児童がいたと考えられます。

また、文脈とは関係なく【花山さんの文章の一部】の〈図〉や自分の経験を基に選択した児童がいたと考えられます。

さらに、衣服の工夫を具体的に書くことを理解することはできたが、着る物の工夫ではなく着方の工夫を具体的に書くと捉えた児童がいたと考えられます。

<今後の学習の手立て>　今後は以下の点に重点を置いた指導・支援を行います。

１．「考え」と「それを支える理由や事例」の繋がりを意識させる

自分の伝えたい考えが何であるかを明確にした上で、それを裏付ける理由や事例を複数挙げさせます。その中から「本当に自分の考えを最もよく支えているのはどれか」を比較・選択する活動を取り入れます。

２．読み手の立場に立った「文章の推敲（振り返り）」の機会を設ける

児童自身が読み手の立場に立ち、「『例えば』に続く内容は、自分の考えをしっかりと支えているか」「着る物の工夫（衣服の工夫）として的確に書けているか」など、客観的に読み直す指導を大切にします。

３．友達や教師との対話を通じた多角的な視点の獲得

自分一人の経験や思い込みだけで判断せず、友達や教師と意見を交流し合うことで、文脈に即して論理的に考える力を育てます。

【小学校　算数】　◇…比較的できている点　◆…課題のある点　〔 〕内の記号は、問題番号

◇単位分数の個数に着目し、数直線上の１を表す目盛りを捉えることができている。
◆基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことに課題がある。

R８小算調査問題

＜おおむね理解している問題＞

◇１、５、９の３枚のカードを当てはめてつくることのできる最も大きい数を書く問題　〔３（１）〕（正答率：約９割）

◇５／３を表す目盛りが示された数直線上の１を表す目盛りを選ぶ問題　〔３（４）〕（正答率：約８割）

＜課題がみられた問題＞

◆ペンギンがいる2つの広場のこみ具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ問題　〔２（3）〕（正答率：約３割）

◆赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を2つ選ぶ問題　〔２（４）〕（正答率：約３割）

大問２（３）　ペンギンがいる２つの広場のこみ具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ問題

「R８全国学力学習状況調査 小学校算数」より

正答率：30.8%

(3) AとBの２つのペンギンの広場があります。
下の表は、広場にいるペンギンの数と広場の面積を表しています。



広場にいるペンギンの数と広場の面積

	ペンギンの数（羽）	面積（m²）
A	10	20
B	12	30

ことねさんは、どちらの広場の方がこんでいるのかを調べるために、下の計算をしました。

【ことねさんの計算】

A　10 ÷ 20 = 0.5
B　12 ÷ 30 = 0.4

問　題

【ことねさんの計算】をもとにどちらの広場の方がこんでいるのかについて下のようにまとめます。
下のアとイ、ウとエの中から、正しいものをそれぞれ選んで、その記号を書きましょう。

【ことねさんの計算】は［ア　１m²あたりのペンギンの数　／　イ　１羽あたりの面積］を求めています。

商を比べると［ウ　商が大きいAの広場　／　エ　商が小さいBの広場］の方がこんでいることがわかります。

課題がみられた問題

正答　[正答率 30.8%]	ア・ウ
誤答例	ア・エ・・・14.5% イ・ウ・・・26.5% イ・エ・・・26.5%

誤答例の分析と課題

示された除法の式が１㎡当たりのペンギンの数を求めているのか、ペンギン１羽当たりの面積を求めているのかを判断することに課題があると考えられます。約半数の児童がイを選んでおり、示された式がペンギン１羽あたりの面積を求めていると誤って捉えています。

＜今後の学習の手立て＞　今後は以下の点に重点を置いた授業改善を図ります。

１．「1 つあたり（単位量）」の意味を正しくとらえる力を育てる
面積と頭数など、異なる種類の数量が組み合わさったとき、それが「1 ㎡あたりに何羽いるのか」なのか、それとも「1 羽あたり　何㎡の広さか」を、言葉や数量の意味として正確にとらえられるようにします。

２．「一方をそろえる」必要性に気付かせる
２つの状況を比べる際には、どちらか一方の量を基準としてそろえる必要があることに自ら気付くことができるよう支援します。

３．図や数直線を用いて「式の意味」を視覚的に理解させる
単に計算の式に当てはめるだけでなく、図や数直線を用いて「求めている式が何を表しているのか」その意味をしっかりとイメージできるようにします。

４．「単位量当たりの大きさ」から適切に判断・活用できる力を養う
求めた数値の意味をもとに、混み具合などの状況を正しく判断し、実際の生活や今後の学習に活かせる力を育てます。

児童質問調査からみられた子どもの姿より　多気町の子どもたち

自分には よいところがある	人が困っている時 進んで助けている	人の役に立つ 人間になりたい	学校に行くのは 楽しい	地域や社会をよくするために 何かしてみたい
８４.９%	**97.3%**	**１００%**	**８５.０%**	**８９.３%**
（全国 85.6%）	（全国 93.5%）	（全国 96.1%）	（全国 86.3%）	（全国 80.2%）

※児童質問で肯定的に回答した割合が高かった主な設問より

今年度の調査においても、学習習慣・生活習慣ともに肯定的に回答する児童が多いという結果でした。上記の項目からも多くの子どもたちが安心できる環境の中で学校生活を送っていることがうかがえますし、地域の行事に参加するだけでなく地域のために何かできることはないかを考えている頼もしい姿があることもわかります。日々あたたかく見守り、しっかり支えていただける保護者と地域の方々の力の大きさは本町の強みの一つです。児童一人ひとりが「自分のことを好きになること・自分に自信を持つこと」は学力向上を支える大きなポイントです。今後も家庭・地域の協力のもと、すべての子どもたちが「学ぶ喜び」「わかる楽しさ」を実感できるよう、本調査の結果を学校の職員全体で共有し、個々の教師が授業の工夫・改善へ、活かしていけるよう取り組みを進めていきます。